

朝日ではじまる「きょういく」と 未来へつながる「また明日」

朝日町立 あさひ未来学園

～義務教育学校の校名決まる～

◆校名決定までの経過

	月日	会議等	点数
募集	8月9日～ 9月16日	校名の募集	374点
一次選定	9月26日	第12回準備委員会	374点 →12点
二次選定	10月3日	教育長、 準備委員会代表者（2人）	12点 →3点
最終選定	10月17日	第13回準備委員会	3点 →2点
決定	10月22日	令和6年度 第5回総合教育会議	2点 →1点

◆選定会議で出された主な意見

- 目指す学びが、この校名からイメージできる。
- 「未来」には、夢や希望、ワクワク感がある。
- 「学園」の呼称に憧れる子どもたちが多い。
（小中学生の応募数269点のうち、103点が「学園」）
- 1年生から9年生まで元気に登校する姿が見える。
- 小さい子どもも分かりやすい、なじめる名前。
- 子どもたちの反応を想像するとワクワクする姿が見える。
- コンセプトにある“明日も行きたい学校”に合っている。
- コンセプトにも「未来へつながる」とあるので良いのではないか。
- 名前を聞いただけでコンセプトが分かり、学校名がコンセプトそのものを表している。
- 今の学びが自分と朝日町の未来をつくるという希望が見える。
- あさひ→陽がさして明るいイメージ
未来→ワクワクや希望に満ち溢れている＝「あさひ未来」
…明るい未来をイメージできる。

令和10年4月の開校に向け準備を進めている義務教育学校の校名が「朝日町立あさひ未来学園」に決まりました。

校名の募集は8月9日から9月16日までの約1カ月間、インターネットの応募フォームなどを通じて実施。その結果、一般105点（うち町内79点、町外26点）、小中学生269点、合計374点の応募がありました。

その後、第12回義務教育学校創設準備委員会で、12点を選定。以後2回の会議を経て2点へ絞り込み、10月22日の総合教育会議（町長と教育長、4人の教育委員で構成する会議）で決定しました。

「友だちや先生、地域の方々と関わりながら学び合い、一日の終わりに『また明日』と笑顔を交わす」。子どもたちのこ

した姿を想起でき、明日も行きたい学校」というコンセプトにぴったりです」と堀教育長。「校名募集にあたって、多くの皆様から寄せられた期待をエネルギー源にして、開校に向けた準備を進めます」と改めて意気込みを語りました。

※校名は今後、町議会の議決を経て正式決定となります。

目次 ◎ CONTENTS

- P2 町長歳時記
- P3 Pick Up News
義務教育学校の校名決まる
- P4 特集
町制施行70周年
- P10 町政スポット
・芸工大生がコテージのデザインを提案
・チャリティー義援金を寄付 ほか
- P14 まちレポ
・朝日町民登山
・神社の夕べ ほか
- P18 みんなでリンゴ、収穫したよ
- P20 ももいろメイトのばんげだなはあ
- P21 それいけ協力隊とウサビ、町立図書館コーナー
- P22 健康あさひるばんざい、朝日町の神社と御堂
- P23 桃色ウサビのフレーム切手が新登場
戸籍のまど、となりのリンゴさん
- P24 みんなでつくろう、健康的な体

表紙の写真



10月25日、町のりんご園（四ノ沢）での1枚。午後4時頃、町の空をだいたい色に染める夕日を背景にリンゴを撮影。夕日に照らされてりんごが美しく輝いていました。

寒暖差が大きくなる10月、町内各地ではリンゴが鮮やかに色付き、収穫作業が行われています。（18頁には子どもたちの収穫体験を掲載）

町長歳時記 (213)

この町を未来につなぐ！ ～挑戦は夢を叶える！～

11月1日、朝日町町制施行70周年記念式典が創遊館ホールにて行われました。式典に先立ち町内各小中学校の児童生徒の皆さんによる太鼓・合唱・群読の発表がありました。多くの来賓の皆さんをお迎えして緊張感に包まれた中での式典の開幕。一生懸命必死に取り組む子どもたちの姿を見て、「ああ、そうなんだ。この子どもたちも式典に向けて一緒に取り組んで来たんだ。私たちは、この元気で前向きな子どもたちと一緒に、未来に向けて一歩を踏み出し歩いているんだ。ありがとう。そして、がんばろう」そんな熱い思いが込み上げ、胸の高鳴りを抑えることができませんでした。いったいこの熱い思いは何なのだ。そしてこの思いはどこから来たのだろうか。

後日、ある禅僧の講話を聞いていたら、「愚公山を移す『列子』』と言う話が耳元に流れて来ました。耳を澄まし聞いていると、それは次のような話でありました。

北山の愚公という90歳近い老人がいました。南が山でふさがっているの、その山を平らにしようと言いつつ出たのでした。息子と孫とで山を崩しにかかりました。これを見た人が「なんと馬鹿げたことを。古い先短いお前さんには、山のかけら一つ崩せまい。ましてあの大きな山の土や石をどうするつもりだ」それに対して愚公は、「わたしが死んでも子どもがいる。子どもが孫を生む。孫がまた子どもを生む。子どもにまた子どもができる。その子どもに孫ができる。こうして子孫代々受け継いで絶えることがない。だが山は今以上高くなならない。平らにできないことがあるものか」と言ったのです。すると天帝は愚公の熱意に打たれ、感心して山を他に移した」と言う寓話でありました。「どんな困難なことでも努力を続ければ、やがて成し遂げることができる」と教えているのです。

「たゆまぬ挑戦はきっと夢を叶えてくれる。この子どもたちと一緒に必ずこの町を未来につないでいく」と意を新たにしたところです。

朝日町長 鈴木浩幸